

型番 AHN530186

お客様へ 器具の取付けの際、電気工事は工事店・電器店へ依頼してください。一般の方の電気工事は法律で禁止されています。

工事店様へ 施工前には、この説明書をよくご覧の上、正しく施工してください。この説明書は必ずお客様へお渡しください。

保存用

【安全上のご注意】

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

| | | |
|-------------|---|--|
| ！ 厳守 | 器具の取付けは、説明書に従い確実に行ってください。 →器具の取付けに不備があると火災・感電・落下によるけがの原因になります。 | 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。 →電源コードが損傷し、火災・感電の原因になります。 |
| 禁止 | このような場所には取付けしないでください。この器具は天井取付専用器具です。傾斜天井・壁などには取付けできません。不安定な場所やベニヤ板などの強度の弱い場所、使用後のネジ穴には取付けしないでください。 →器具の落下によるけがの原因になります。 | 下図のような配線器具の場合、取付けできません。 →火災・感電・落下によるけがの原因になります。配線器具の交換には資格が必要です。工事店・電器店に依頼してください。 ●破損している ●電源端子露出形 |
| ！ 厳守 | 器具を改造したり、部品を追加・変更して使用しないでください。 →火災・感電・落下によるけがの原因になります。 | 器具と被照射面の距離は表示および説明書に従って取付けてください。 →照射距離が制限より近すぎると被照射物の変質・変色または焼損による火災の原因になります。 |
| ！ 厳守 | 器具のすきまや放熱穴などに金属類を差し込まないでください。 →感電・故障の原因になります。 | 電源コードが損傷した場合(芯線の露出・断線など)、速やかに電源を切り、工事店・電器店に修理を依頼してください。 →そのまま使用しますと、火災・感電の原因になります。 |
| ！ 厳守 | 埋込ボックスに取付ける場合は、金属製のものをご使用ください。 →樹脂製ボックスの場合、器具の熱伝導により、樹脂の劣化が促進され火災・落下によるけがの原因になります。 | 異常を感じた場合は、速やかに電源を切ってください。 →放置しますと火災・落下によるけがの原因になります。工事店・電器店にご相談ください。 |
| ！ 厳守 | 器具のすきまや放熱穴などに金属類を差し込まないでください。 →感電・故障の原因になります。 | |
| ！ 厳守 | 器具のすきまや放熱穴などに金属類を差し込まないでください。 →感電・故障の原因になります。 | |
| ！ 厳守 | 器具のすきまや放熱穴などに金属類を差し込まないでください。 →感電・故障の原因になります。 | |

■スポットライトのランプ交換について

△注意 ランプ交換の際は安全のため電源を切ってください。感電の原因になります。

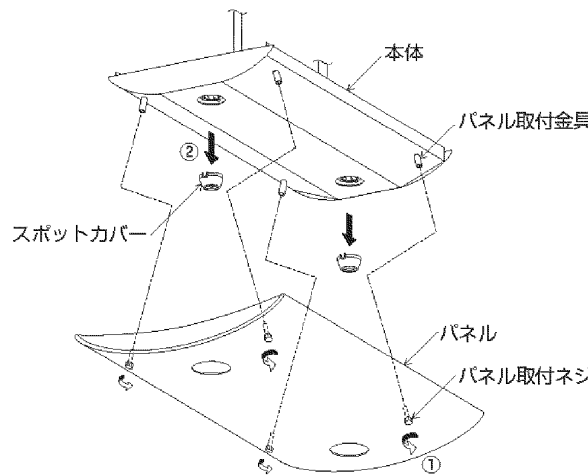
△警告 指定のランプ以外は使用しないでください。間違った種類、ワット数のランプを使用すると火災の原因になります。

△注意 点灯中や消灯直後は器具やランプが高温のため触らないでください。やけどの原因になります。しばらくしてから行ってください。

1 電源を切る

2 パネル・スポットカバーを取外す

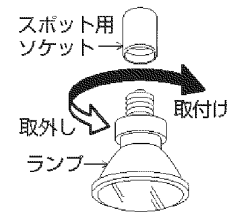
- ① パネル取付ネジをゆるめ、パネルを取外す。
- ② スポットカバーをまっすぐに引き下ろし、取外す。



3 古くなったランプを取外す

4 新しいランプを取付ける

ランプの取付けは丁寧に、確実に行ってください。落下によるけがの原因になります。



5 スポットカバー・パネルを取付ける

■施工手順7・8を参考にスポットカバー・パネルを取付ける。

6 使用済みのランプは

必ず市区町村の指示に従い、処理してください。

■器具のお手入れ △注意 器具のお手入れの際は安全のため電源を切ってください。感電の原因になります。

- 明るく安全に使用していただくために6ヶ月に1回程度の清掃・点検をしてください。
- 蛍光灯の両端が黒ずみだしたら交換時期です。長い間使用していると知らないうちに暗くなってきました。定期的に交換しましょう。
- 器具の汚れは乾いた柔らかい布が薄めた中性洗剤を浸透させた柔らかい布をよく絞ってから拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの揮発性のもので拭いたり、殺虫剤をかけたりしないでください。また、薄めた中性洗剤を使用した場合は、洗剤が残らないよう、よく拭き取ってください。変質・故障の原因になります。

コイズミ照明器具 保証書

※お客様へ 保証書の記載内容をよくお読みいただき、販売店様発行の領収書と合わせて大切に保管してください。

<保証について>

1. 取扱説明書、本体添付ラベルなどの注意書きに沿った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理させていただきます。
2. 保証期間は製品お買い上げ日より1年間です。但し、蛍光灯安定器・HID器具の安定器は3年間です。
3. ランプ・クロー点灯管・電池などの消耗品は、対象外といたします。
4. 24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間使用の場合は上記の半分の期間とします。
5. 保証期間でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (1) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
 - (2) お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)などによる故障及び損傷
 - (4) 車両、船舶などに搭載された場合に生ずる故障及び損傷
 - (5) 施工上の不備に起因する故障や不具合
 - (6) 法令、取扱説明書で要求される保守点検を行わないことによる故障及び損傷
 - (7) 保証書及び領収書あるいは販売店様発行の保証書のご提示のない場合
6. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
7. 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

<アフターサービスについて>

1. 保証期間中に万一故障がおきた場合は、保証書を添えて、お買い上げの販売店・工事店までお申し出ください。
2. 保証期間を過ぎているときは、お買い上げの販売店・工事店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。
3. 販売店・工事店にご依頼にならない場合や修理についてのご相談は弊社サービスセンターにご連絡ください。
4. 弊社は照明器具の補修用性能部品を製造打ち切り後最低6年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。従いまして主に電気部品が中心でセードなどの意匠部品は対象外です。

※保証書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理や、製品・修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店・工事店または別紙記載のコイズミ照明「お客様相談室」・サービスセンターにお問合せください。

※This warranty is valid only in Japan.

| | | |
|----------------|--------|---------------------|
| 保証期間(お引き渡し日より) | お買上年月日 | 取扱販売店名・工事店名・住所・電話番号 |
| 本体：1年間 安定器：3年間 | | |
| お客様 | お名前 | |
| | ご住所 | |
| | 電話 () | |

| 注意 | | この表示を無視して誤った取り扱いをすると 傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。 | |
|-----------|---|--|---|
| 接触禁止 | 点灯中や消灯直後は器具やランプが高温のため触らないでください。 →やけどの原因になります。 | 禁止 | アームなどの可動部のすきまに指を入れないでください。 →けがの原因になります。 |
| 水ぬれ禁止 | この器具は非防水です。湿気の多い場所や屋外では使用できません。 →火災・感電の原因になります。 | 禁止 | 器具の下にストーブなどの高温のものを置かないでください。また、燃えやすいものを近づけて使用しないでください。 →火災の原因になります。 |
| 禁止 | 周囲温度5～35℃、湿度45～85%の環境以外では使用しないでください。 →火災・感電の原因になります。 | アース工事 | アース端子(線)がついている器具は必ず電気設備の技術基準に従って、接地(アース)工事を行なってください。 →アースが不完全な場合、感電の原因になります。 |
| | ライトコントローラなどの調光器との併用はできません。 →火災の原因になります。調光器の取外しが必要です。調光器の取外しには資格が必要です。工事店・電器店に依頼してください。 | 厳守 | 表示された電源電圧(AC100V)以外の電源で使用しないでください。 →火災・感電の原因になります。 |

■定格

| 型番 | 定格電圧 | 周波数 | 消費電力 | 使用ランプ |
|-----------|--------|---------------|------|---|
| AHN530186 | AC100V | 50/60Hz 共用 | 135W | FHP32×2 + ダイクロミックハロゲン球 JDR 110V 35W/K(E11)×2 |

■施工前の確認

1 天井に右図の配線器具がついている場合
電気工事は不要。取付けられている配線器具が確実に固定されているか確認する。

シーリングボディ
 フル引掛シーリング
 埋込ローゼット
 フル引掛ローゼット

2 取付面がクロス貼りの場合
接着剤が十分に乾燥してから器具を取付ける。変色やサビの原因になります。

■施工手順 ▲注意 取付けの際は必ず電源を切ってください。感電の原因になります。

※この図は一部抽象化した共通部品図です。
※部品の有無・損傷を確認し、不備の際は取付けないでください。

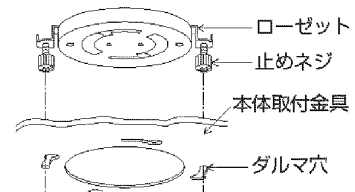
〈付属部品〉

| | |
|--|------------------|
| | 取付金具・・・・・・・・・・1個 |
| | 取付補助金具・・・・・・・・1個 |
| | 取付ネジ・・・・・・・・・・2本 |
| | 止めネジ・・・・・・・・・・2本 |
| | スポットカバー・・・・・・2個 |

1 本体取付金具を取付ける

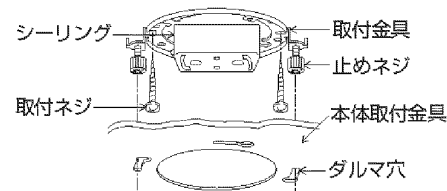
<ローゼットの場合>

本体取付金具のダルマ穴をローゼットの止めネジに合わせる。



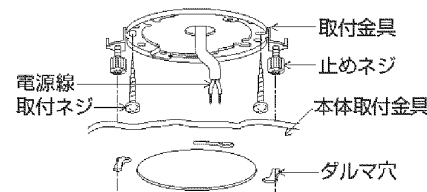
<シーリングの場合>

取付金具をシーリングに合わせて取付ける。本体取付金具のダルマ穴を取付金具の止めネジに合わせる。

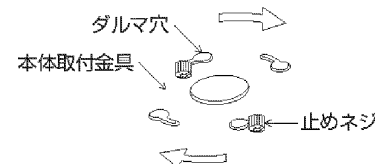


<電源線が天井から出ている場合>

取付金具を電源線に合わせて取付ける。本体取付金具のダルマ穴を取付金具の止めネジに合わせる。

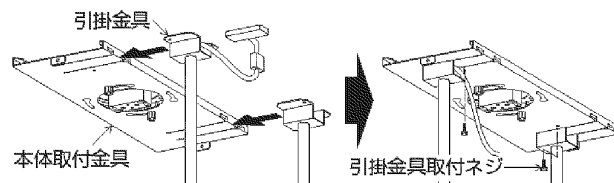


本体取付金具を回転させ、止めネジを締め付けて取付ける。



2 引掛金具を取付ける

引掛金具を本体取付金具に引っ掛け、引掛金具取付ネジで取付ける。

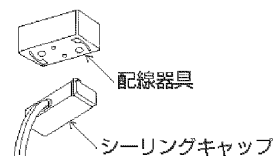


3 電源の接続

<配線器具の場合>

シーリングキャップを配線器具にはめ込む。

※D種(第三種)接地工事を行なう。



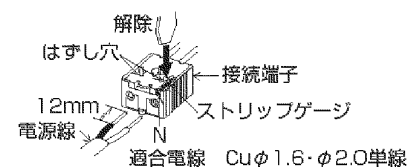
<電源線が天井から出ている場合>

接続端子のはずし穴に幅6mmのマイナスドライバーを差し込み、シーリングキャップを抜く。ストリップゲージに合わせて電源線の被覆をむき、接続端子に確実に差し込む。

はずす時ははずし穴に幅6mmのマイナスドライバーを差し込み、電源線を抜く。

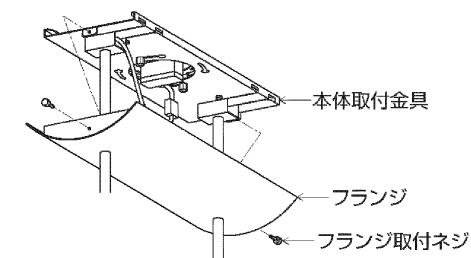
※D種(第三種)接地工事を行なう。

⚠ 警告 電源の接続を確実に行ってください。接続が不完全な場合は火災の原因になります。



4 フランジを取付ける

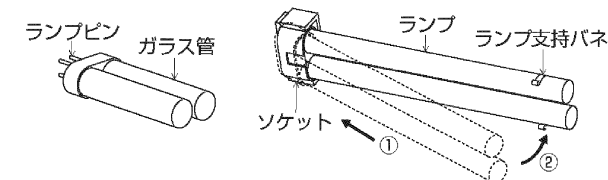
フランジを本体取付金具に合わせ、フランジ取付ネジで取付ける。



5 ベース用ランプを取付ける

ランプピンを手前よりソケットに確実に差し込み、本体側に押し、ランプ支持パネにはめ込む。

※ガラス管を強く押すと破損のおそれがあります。



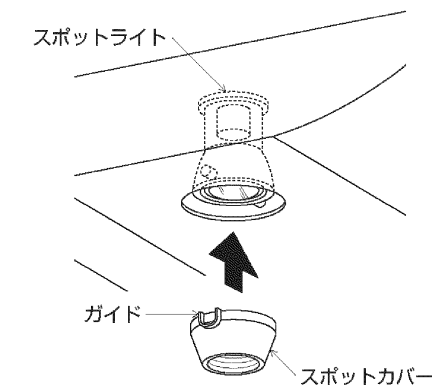
6 スポット用ランプを取付ける

器具の指定ランプ(110V定格電圧)を確認し、スポット用ソケットに確実に取付ける。

7 スポットカバーを取付ける

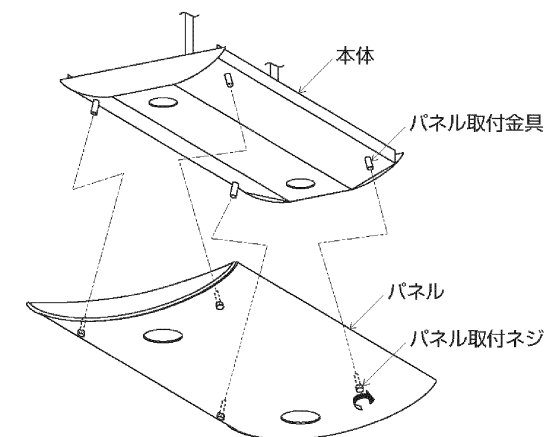
スポットカバーをスポットライトに合わせ、まっすぐに押し上げて取付ける。

※スポットカバーには方向性があります。図を参考に取付ける。



8 パネルを取付ける

パネルを本体のパネル取付金具に合わせ、パネル取付ネジを締め付け取付ける。



9 点灯の確認を行なう

■壁スイッチで操作する (プルレス操作)

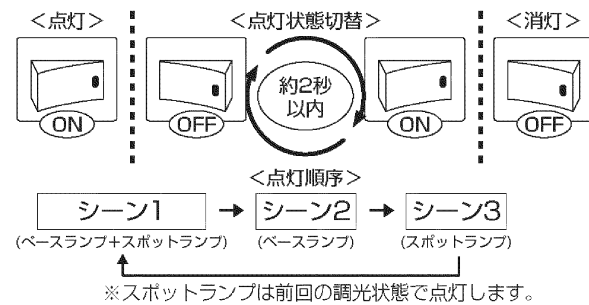
- 壁スイッチをONにすると点灯します。
- ・壁スイッチをOFFにし、約2秒以内にONにすると点灯状態の切り替えができます。
- ・壁スイッチをOFFにし、約3秒以上過ぎてからONにするとOFFにする前の状態で点灯します。

※ただし、リモコン送信機で消灯した場合、スポットランプは約30%の明るさで点灯します。

- 1つの壁スイッチで2台以上の器具をプルレス操作することは避けてください。

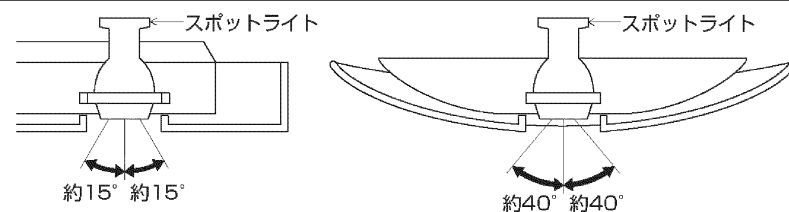
<ホタルスイッチなど、電源OFF時に表示が点灯するタイプのスイッチを使用する場合>

壁スイッチの使用は2個(3路配線)までとしてください。3個(4路配線)以上使用されますとプルレス動作が正常にはたらかない場合があります。壁スイッチを3個以上使用される場合は、ホタルスイッチタイプ以外のスイッチを使用してください。



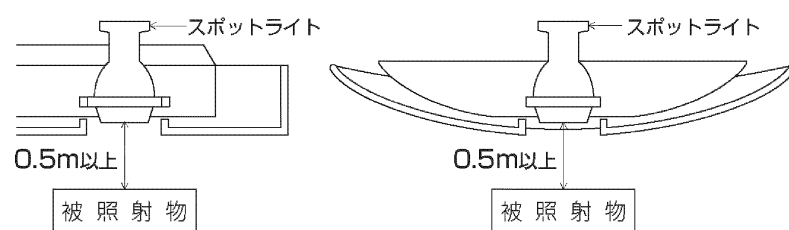
■照射方向の調節について

- 照射方向を調節する場合はスポットライトの上部を持って行ってください。指定範囲以上、無理に動かさないでください。



■照射距離について

- 照射距離により被照射面が変色・変質するおそれがあります。被照射面との距離は0.5m以上離してください。

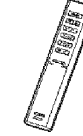


■リモコン(別売:AEE590145)で操作する

※壁スイッチがある場合、壁スイッチをONにし、リモコン送信機を操作してください。

別売リモコン送信機

AEE590145



明るさの切り替えができます。

AEE590284



おやすみとおめざめをサポートするタイマー機能と明るさの切り替えができます。操作については送信機の説明書をご確認ください。

1 リモコン送信機の操作について

リモコン送信機は必ず器具に向けて操作してください。また、リモコン送信機を操作すると、確認音が本体よりします。

※信号音スイッチの設定が「切」の場合、確認音はしません。

調光(▼▲)スイッチ

スポットランプを▲あるいは▼スイッチを押し続けると100%~0%の間で好みの明るさに調節できます。

チャンネルスイッチ

2台の器具を個々に操作する場合には器具側のスイッチと合わせます。※「4 器具選択の設定について」をご確認ください。

蓄光マーク

順送りスイッチ

シーン1 → シーン2 → シーン3 → 消灯
(ベースランプ+スポットランプ) (ベースランプ) (スポットランプ)

の順送りが可能です。
※スポットランプは前回の調光状態で点灯します。(0%時は0%状態で点灯)

シーン選択スイッチ

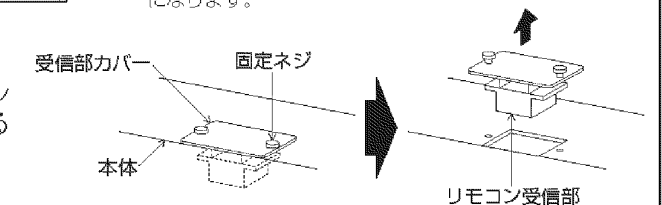
好みの点灯状態に切り替わります。
シーン1: ベースランプ点灯/スポットランプ調光
シーン2: ベースランプ点灯
シーン3: スポットランプ調光

消灯スイッチ

全てのランプが消灯します。
※リモコンで消灯してから壁スイッチをOFFにし、約3秒以上過ぎてからONにするとスポットランプが30%状態になります。

2 リモコン受信部の取外しについて

リモコン受信部は本体に収納されています。リモコン受信部のスイッチを操作する場合は、固定ネジをゆるめて受信部カバーを持ち上げてください。



3 リモコン受信部のスイッチについて

器具選択スイッチ

出荷時はⅠに設定されています。器具施工時に変更されている場合がありますので、「4 器具選択の設定について」をご確認ください。

信号音スイッチ

リモコン送信機操作時の音の入/切。

リモコン受信部

リモコン送信機からの信号を受けます。(傷つけたり、汚したりしないでください。)

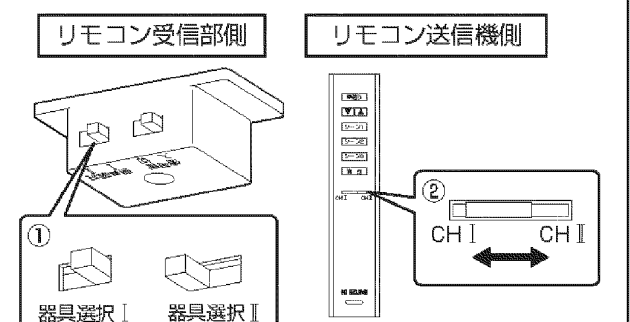
4 器具選択の設定について

<1台の器具のみ操作する場合>

リモコン送信機のスイッチをⅠにしてください。

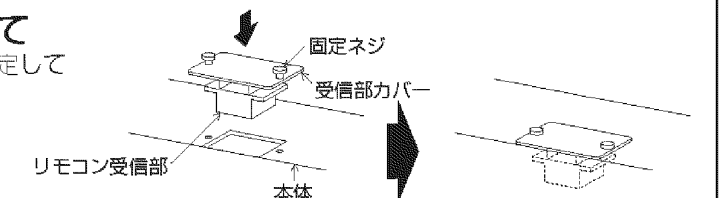
<2台の器具を操作する場合>

一室で2台の器具をリモコン送信機で操作する場合は、どちらか一方のリモコン受信部側のスイッチをⅠにし、他方をⅡにしてください。リモコン送信機側のスイッチを操作したい照明器具のスイッチに合わせてください。



5 リモコン受信部の取付けについて

リモコン受信部を本体に入れて、固定ネジで固定してください。



修理を依頼される前に

処置した後にもなお異常がある場合は、必ず電源を切り、工事店・電器店、別紙サービスセンターにご相談ください。

●動作に異常があると思われる場合は下記の点検を行なってください。

| 現象 | 考えられる原因 | 処置 |
|--|---|---|
| 壁スイッチで照明器具を操作できない、または点灯しない | プルレス操作が確実に出来ていない | 電源のON・OFF状態がわからないタイプの壁スイッチをご使用の場合、操作を確実に行ってください(2秒以内のOFF→ON) |
| | ランプが切れている | ランプを交換する |
| | 壁スイッチがOFFになっている | 壁スイッチをONにする |
| リモコン送信機で照明器具を操作できないまたは、点灯しない | リモコン送信機の電池の極性+が間違っている | 電池を正しく入れる |
| | リモコン送信機の電池が切れている | 電池を交換する |
| | 照明器具とリモコン送信機のチャンネルが合っていない | 照明器具とリモコン送信機のチャンネルを合わせる(説明書の■リモコンで操作するをご確認ください) |
| 白熱灯だけが点灯しない(ランプ切れ以外で) | リモコン送信機の▼スイッチで調光が0%になっている | シーン3に切り替え、リモコン送信機の▲スイッチで点灯させる |
| 白熱灯が勝手に100~0%の調光を繰り返し、リモコン送信機が反応しない | 壁スイッチなどの操作により、デモモードになっている | ■壁スイッチで操作するのプルレス操作を行なう(頻繁になるようであれば、受信部側の器具選択スイッチを「I」にするか、信号音スイッチを「入」でご使用ください) |
| 白熱灯が勝手に明るくなったり暗くなったり繰り返すが、リモコン送信機は反応する | 器具の周辺温度が高くなり、保護回路が働いた可能性があります。故障ではありません | 器具周辺温度は5~35℃の範囲でご使用ください |
| リモコン送信機で消灯したのに白熱灯が点灯している | リモコン送信機で消灯してから壁スイッチをONにした | 再度、電源が入ると白熱灯が約30%の明るさで点灯するようになっています(お出かけの際は、壁スイッチをOFFにしてください) |
| | 消灯中に、停電が起こった可能性があります | |
| 蛍光灯が全灯もしくは全灯段階調光にできない | シーン1あるいはシーン3になっている | シーン2に切り替え、リモコン送信機の▲あるいは▼スイッチで切り替える ※シーン1では切り替えできません |

❗ 器具の取外しは工事店・電器店に依頼してください。→感電の原因になります。

■使用上のご注意

- 照明器具の寿命は、使用条件、使用環境で異なりますが、一般的な使用状態で8~10年が目安です。数年に1回は、専門家(工事店・電器店)による点検を実施していただき、不具合がありましたら適切な処置を施してください。放置すると、火災・感電・故障の原因になります。
- 器具の近くでリモコン(コントローラ)を操作した場合、誤動作することがあります。器具とコントローラ受信部を離してご使用ください。
- 器具の近くや電波状況の弱い場所では音響製品に雑音が入る場合があります。器具と音響製品を離してご使用ください。
- 点灯および消灯直後に音が発生する場合があります。熱による器具構成材料の収縮音です。ひどい場合は購入店にお申し出ください。
- 多灯用器具は間引き点灯しないでください。過大電流により安定器の短寿命の原因になります。

■故障ではありません

以下のような症状は、ランプが寿命末期になり、器具の保護回路が働いたため、故障ではありません。

点灯中に突然ランプが・・・

- ・消灯もしくは点滅する
- ・消灯して暗くなったり、豆球が点灯する
- ・調光操作ができなくなったりする

いずれの場合も電源を入れ直すと再び点灯するが、しばらくすると同じ状態になる

電源を切ってランプを交換して電源を入れ直せば正常に点灯します。

■ベースライトのランプ交換について

△注意 ランプ交換の際は安全のため電源を切ってください。感電の原因になります。

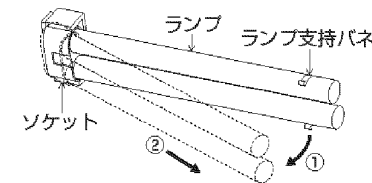
警告 指定のランプ以外は使用しないでください。間違った種類、ワット数のランプを使用すると火災の原因になります。

△注意 点灯中や消灯直後は器具やランプが高温のため触らないでください。やけどの原因になります。しばらくしてから行ってください。

△注意 ランプホルダー(ソケット)やランプ支持バネを強く弾かないでください。ランプの破損・けがの原因になります。

1 電源を切る

2 古くなったランプを取外す

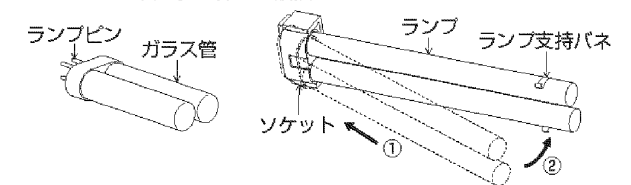


3 新しいランプを取付ける

ランプの取付けは丁寧に、確実に行ってください。落下によるけがの原因になります。

ランプピンを手前よりソケットに確実に差し込み、本体側に押し、ランプ支持バネにはめ込む。

※ガラス管を強く押すと破損のおそれがあります。



4 使用済みのランプは

必ず市区町村の指示に従い、処理してください。